

中国の記事から（畜産）

2006年6月30日号

目次

◎ブロイラー加工大手の聖農集団、福建省で鶏糞発電所建設へ

【国際商報 2006年06月21日】

◎農業部獣薬審査センターが本格的に稼働

【国際商報 2006年06月30日】

◎全国243万人の小中学生が毎日牛乳を飲む

【経済日報 2006年06月15日】

農業部の張宝文・副部長（「学生牛乳飲用計画」協調チーム長）は、13日に開かれた会議で、2005年末現在、全国60都市の1万校余りの小中学校で「学生牛乳飲用計画」が実施され、毎日243万人分の牛乳が消費されたことを明らかにした。全国の小中学生2億4000万人の約1%が同計画の恩恵を受けている。国は青少年の体格向上を目指して2000年から「学生牛乳飲用計画」を実施。国は同計画に牛乳を供給するメーカーのHACCP認証取得を促し、税制面でも減免を行うなど一定の優遇措置を採ると共に、特に貧困農村地区の小中学生には牛乳摂取のための補助も行って栄養状態改善に力を入れている。

◎日本のポジティブリスト制で中国産ローヤルゼリーが返品

【国際商報 2006年06月15日】

中国医薬保健品（医薬品・健康食品）輸出入商会（医保商会）は、抗生物質含有量が基準をオーバーしたため日本向けに輸出したローヤルゼリーカプセルが返品されたことを明らかにした。

日本が5月末に実施した残留農薬規制強化策・ポジティブリスト制度ではローヤルゼリー中のクロラムフェニコール含有量は従来の0.05PPM以下から0.0005PPM以下と基準は大幅に強化された。今回の返品もこれが原因となっている。全国のローヤルゼリー製品輸出力は、日本向けが70%を占める。ポジティブリスト制実施で中国のローヤルゼリー輸出は大きな影響を受ける見込みである。

また、医保商会ローヤルゼリー分会の劉張林・秘書長は、零細メーカーが不合格製品を輸出し全国ローヤルゼリー輸出市場が破壊されることを回避し、メーカーはクロラムフェニコール含有量を抑えるべきと呼び掛けている。

本情報は、株式会社日本能率協会総合研究所により翻訳された中国の新聞記事をもとに、同社の許可を得て独立行政法人農畜産業振興機構が整理したものです。